



ピアニスト100

100人を聴く10年、ついにラストシーズンへ。

●●● 音楽監督:中村絃子 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール ●●●

若きエネルギー 欧州での活躍がめざましい美しき華



アリス=紗良・オット (ドイツ)

1988年ドイツ人と日本人の両親のもと、ミュンヘンに生まれる。95年ドイツ連邦青少年音楽コンクール優勝を皮切りに、97年スタインウェイ国際、98年イタリア・リゲティ国際、99年ハンブルク音楽ホール、2000年クロートリアン・シュタインヴェーク国際、01年及び02年ミュンヘン・カール・ラング、03年リンダウ・ロータリー・ヤンガー・ミュージックの各コンクールで全て第1位受賞。03年にはケーテン・バッハ・コンクールで第1位と市長特別賞も獲得。現在、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学でカール=ハイッツ・ケマリク氏に師事。

アリス=紗良・オットさんよりメッセージが届きました。

昔から私にとって音楽とは、世界の皆を結び、自分の感情やファンタジーを一番表現できる世界共通語であり、ドイツ人、日本人としての日常生活の些細なエピソードの「語り」でもあります。母の故郷でこの「ピアニスト100」の最後10人のトップバッターとして、大きな名誉と責任が私を奮い立たせます。この「語り」が皆様心のどこかで共鳴し、そして皆様と一つになれば最高です。



91/100 アリス=紗良・オット Alice Sara Ott

【日時】4月8日(土) 16:00開演
【曲目】モーツァルト:デュポールのメヌエットによる 9つの変奏曲 二長調 K.573
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第23番 へ短調 op.57「熱情」
リスト:コンソレーション(全6曲) パガニーニ 大練習曲集(全6曲)
【チケット(税込)]一般 S席 3,000円/A席 2,000円
学生 S席 2,000円/A席 1,000円 メンバース S席 2,700円

クリーヴランド優勝! 大きく花開いた期待の新鋭



ホワン・チューファン (中国)

7歳でピアノを始め、12歳で中国の瀋陽音楽学院プレカレッジ・ディヴィジョンに最年少で奨学金全額を得て入学。15歳でアメリカに移住。第12回ヴァン・クライバーン国際コンクールでファイナリストに選ばれ、その2ヵ月後には2005年クリーヴランド国際コンクールで優勝するなど、数々のコンクールで優勝・入賞を果たしている。中国はもとより、ヨーロッパやアメリカにおいても幅広い演奏活動を行っている。カーティス音楽院でクロード・フランク氏に師事。現在ジュリアード音楽院修士課程に在籍しロバート・マクドナルド氏のもとで研鑽を積んでいる。

92/100 ホワン・チューファン Huang Chu-Fang

【日時】5月20日(土) 16:00開演
【曲目】シューマン:幻想曲 ハ長調 op.17
ストラヴィンスキー/アゴ스티作曲:組曲「火の鳥」
ドビュッシー:前奏曲集より
第1集 第5曲 アナカプリの丘 第1集 第7曲 西風の見たもの
第II集 第6曲 風変わりなラヴィーンと將軍
第I集 第2曲 帆 第II集 第12曲 火花
ラヴェル:ラ・ヴァルス
【チケット(税込)]一般 S席 3,000円/A席 2,000円
学生 S席 2,000円/A席 1,000円 メンバース S席 2,700円

「ピアニスト100」シリーズの91、92回と若手女流2人が並ぶ。第91回に登場するのは、アリス=紗良・オット。1988年生まれ今年の18歳になるという若さだが、CDデビューはなんと15歳という早熟ぶり。リストのエチュードなど小品にさわやかなセンスを効かせたこのアルバムは、ドイツで高く評価されたという。コンクール入賞歴やコンサート出演も数多く、著名ピアニストの絶賛も相次いでいるとき。今回はその得意なリストのレパートリーにベートーヴェンの本格的な「熱情」ソナタにも挑戦。ドイツ人の父、日本人の母のもとにドイツに生まれた彼女は、一般的な日本人女性とはひと味違ったリスト、ベートーヴェンなどを楽しませてくれるだろう。

第92回に登場するホワン・チューファンの演奏は、2004年5月に北京で開かれた中国国際ピアノコンクールを視察した際に初めて聴いた。ステージに登場するだけで華やいた雰囲気を持ち、ドラマティックにラフマニノフの第2協奏曲を演奏するホワンの演奏は、ひょっとすると第1位かと思わせる素晴らしいものであったが、何故か第4位。しかしいつもにこやかで感じの良い素敵ピアニストで、強い印象を残してくれた。その後クリーヴランドで優勝したが、全く当然のことであろう。リサイタルではシューマンやドビュッシーに混じって、ストラヴィンスキー「火の鳥」のピアノ版が目ざされよう。アメリカで活躍する中国人の洗練された一面を、存分に楽しみたいリサイタルである。 諫山 隆美 (いさやまたかよし、音楽評論家)

No.93~No.100

93/100 ケマル・ゲキチ(クアアチア) Kemal Gekic ◆6月17日(土) 16:00開演
◆曲目:ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 op.27-2「月光」/リスト 超絶技巧練習曲集(全12曲)、ハンガリー狂詩曲 第9番 変ホ長調「ベシュの謝肉祭」

94/100 北村 朋幹(日本) Tomoki Kitamura ◆7月23日(日) 15:00開演
◆曲目:バッハ イギリス組曲 第3番 ト短調 BWV808/モーツァルト ピアノ・ソナタ 第13番 変ロ長調 K.333/メンデルスゾーン 幻想曲 嬰ハ短調 op.28「スコットランド風ソナタ」/スクリャーピン 幻想曲 口短調 op.28/ベルク ピアノ・ソナタ op.1/リスト ハンガリー狂詩曲 第10番 ホ長調「前奏曲」/シューベルト ピアノ・ソナタ 第14番 イ短調 op.143 D.784/シューマン ワイーンの謝肉祭の道化芝居「幻想的情景」 op.26

95/100 アンティ・シーララ(フィンランド) Antti Siirala ◆9月10日(日) 15:00開演
◆曲目:ベートーヴェン グラニツキーのバレエ『森の娘』のロシア舞曲による12の変奏曲
イ長調 WoO71、6つのバガテル op.126、ピアノ・ソナタ 第5番 ハ短調 op.10-1、ピアノ・ソナタ 第6番 へ長調 op.10-2、ピアノ・ソナタ 第7番 二長調 op.10-3

96/100 シプリアン・カツァリス(フランス) Cyprien Katsaris ◆10月21日(土) 16:00開演
◆曲目:シューベルト 3つのピアノ小品 D.946 より 第1番 変ホ短調、第2番 変ホ長調/シューベルト(リスト編曲) 歌曲「セレナーデ」「水車屋と小川」「アヴェ・マリア」/ハイドゥン ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI-35/L.モーツァルト(キャメロン編曲) おもちゃの交響曲/リスト(カツァリス編曲) 2つのチャールダーシュ より 第2曲 チャールダーシュ・オプスティネ/シヨパン ワルツ イ短調 op.34-2、練習曲 ハ短調 op.25-12、夜想曲 変ホ長調 op.9-2、幻想即興曲 嬰ハ短調 op.66、子守歌 変二長調 op.57/J.S.バッハ(カツァリス編曲) トッカータとフーガ 二短調 BWV565

97/100 キム・デジン Kim Daejin ◆11月19日(日) 15:00開演

98/100 アルカディ・ヴォロドス Arcadi Volodos ◆12月9日(土) 16:00開演

99/100 レイフ・オヴェ・アンズネス Leif Ove Andsnes ◆2007年2月10日(土) 16:00開演

100/100 第6回浜松国際ピアノコンクール最高位受賞者 Winner of the 6th Hamamatsu International Piano Competition ◆2007年3月 ※コンクール本選後に決定



2年ぶりの夢の共演、
埼玉会館でのみ実現する夢のプログラム!!

フェドセーエフ指揮

チャイコフスキー記念 モスクワ放送交響楽団 ピアノ/小山実稚恵

30余年の深い絆で結ばれた巨匠フェドセーエフ+名門モスクワ放送交響楽団、そしてフェドセーエフが最も信頼を寄せるピアニスト小山実稚恵が贈る 珠玉のオール・ロシア・プログラム

フェドセーエフは、1974年からモスクワ放響の音楽監督として迎えられ、以後30余年もの歳月をこのオーケストラと共にしている。今ではヨーロッパ各国で非常に高い人気を得て、演奏会は常に大きな反響を呼んでいる。スマートでありながら人間くさいフェドセーエフの指揮、それにこたえるように曲に応じて絶妙なバランスの響きを創出する楽器たち。そこに私たちは両者の長く深い結びつきを感じ取ることができる。

今回埼玉会館では、まずラフマニノフ「ピアノ協奏曲第2番」が演奏される。大ピアニストで、並はずれた大きな手を持っていたラフマニノフは、随所に超絶技巧を盛り込んだ。その華麗な技巧と、ロシア的な哀愁と美しいムードを醸し出すこの曲は、イギリス映画

チャイコフスキー記念モスクワ放送交響楽団
Tchaikovsky Symphony Orchestra of Moscow Radio.

ロシアの最も輝かしいオーケストラとして知られるモスクワ放送交響楽団(TSMR)は、1930年に創立され、ソヴィエト・ラジオ・ネットワークの公式オーケストラとなった。初代音楽監督アレクサンドル・オルロフ以降、常に音楽界最高の指揮者を音楽監督に迎え、芸術性と個性を築き上げてきた。1974年ウラディーミル・フェドセーエフが音楽監督に就任、現在に至っている。チャイコフスキーをはじめとするロシア音楽の演奏において特に優れたパートナーシップを発揮するが、ロシア作品にとどまらずレパートリーの幅を広げていることが常に評価されている。1993年には、チャイコフスキーの演奏団体として「世界最優秀のオーケストラ」であることを認められ、ロシア文化省、国際チャイコフスキー協会、チャイコフスキー博物館より「チャイコフスキー記念」の称号が贈られた。ロシア主要音楽祭には欠かせない存在であり、また世界の主要都市で公演を行う他、ミュンヘン、フランクフルトで開かれた「チャイコフスキー音楽祭」でも中心となって演奏を行うなど、世界各地の音楽祭に出演している。

フェドセーエフ指揮
チャイコフスキー記念
モスクワ放送交響楽団
ピアノ/小山実稚恵

【日時】
5月27日(土)
17:00開演
【会場】
埼玉会館 大ホール
【曲目】ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18
チャイコフスキー:交響曲 第6番 口短調 op.74「悲愴」
【チケット(税込)]
一般 S席8,000円 A席6,000円 B席4,000円
学生席2,000円 *学生券ご購入の場合は学生証の提示が必要です。
メンバース S席7,200円 A席5,400円 B席3,600円
【前売・電話予約】財団チケットセンター 048-858-5511
埼玉会館(窓口販売のみ)

ウラディーミル・フェドセーエフ(音楽監督/首席指揮者)
Vladimir Fedoseyev, Artistic Director/Principal Conductor

1932年レニングラード(現サンクトペテルブルグ)生まれ。モスクワ音楽院研究科のレオ・ギンズブルグ教授のもとで学ぶ。1971年エフゲニー・ムラヴィンスキーからレニングラード・フィルの客演指揮者として招かれたことを契機に、輝かしいキャリアをスタート。1974年モスクワ放送交響楽団の音楽監督及び首席指揮者に就任。以後30年にわたるパートナーシップを築いて同オーケストラをロシアのトップクラスの楽団に育て上げ、世界ツアーを通じて海外での評価を確立している。叙情的なロシア作品でも重厚なヨーロッパ作品においても、国民的特性を充分に引き出した演奏をすることで定評がある。

バイエルン放響、シュトゥットガルト放響やフランス、イタリア、スイス、イギリス、スカンディナヴィア、アメリカなどの一流オーケストラに客演。1997年1月よりウィーン交響楽団の首席指揮者に就任し、ウィーンのムジークフェライン・ザールや海外で大成功を収めた。オペラでも活躍しており、現在はチューリッヒ歌劇場の客演指揮者として成功を収めている。1996年世界の第一線で活躍するロシア人に対する賞【Services to the Motherland】を授与され、同年12月には、オーストリア共和国政府より「シルヴァー・クロス賞」を授与された。



小山実稚恵(ピアノ) Michie Koyama, Piano

1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位、1985年ショパン国際ピアノコンクール第4位と、二大国際コンクールに日本人として初めて入賞。以来、人気、実力ともに日本を代表するピアニストとして目覚ましい活躍を続けている。2006年6月からはBunkamuraオーチャードホールにて春・秋年2回ずつ2017年までの「12年間・24回リサイタルシリーズ「小山実稚恵の世界」〜ピアノで綴るロマンの旅」に取り組み。BBC響、モントリオール響、モスクワ放響をはじめ、海外オーケストラや世界的指揮者とも数多く共演。彩の国さいたま芸術劇場においてはシリーズ企画にも積極的に取り組み、2002年から2004年はスクリャーピン、ラフマニノフのソナタ全曲他を全7回、また2001年から2005年にはブラームスの室内楽を全5回にわたって演奏。2004年5月には埼玉会館においてフェドセーエフ指揮/モスクワ放響と共演。ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル専属アーティストとして、多数のCDをリリース。2003年6月にリリースした「ラフマニノフ・ピアノ協奏曲第3番(フェドセーエフ指揮/モスクワ放響)他」は大絶賛された。また、「スクリャーピン:ピアノ・ソナタ全集」に続けて、「シヨパン:バラード(全曲)」もレコード芸術誌特選盤に選ばれ、大好評を博している。2005年度文化庁芸術祭賞音楽部門大賞、第7回ホテルオーケラ音楽賞を受賞した。

